高等部ティーボール試合規定(2015)

競技場及び用具等

1. 塁間は、１６ｍとする。バッターズサークルとして本塁角を中心に半径３ｍの円を定める。
2. ボールは１４インチティーボール、バットはティーボール用を使用する。グローブの使用は、自由とする。
3. バッティングティーは、本塁ベースの後方５０㎝～１ｍの位置に置く。
4. １塁は、ダブルベースを使用する。
5. 金属製のスパイクは、使用禁止とする。
6. 服装は、チームごとに統一し、背番号を付ける。
7. ベンチは、組み合わせ番号の若いチームを１塁側とし、先攻・後攻はキャプテンのジャンケンで決める。

プレーヤー

8. ベンチに入ることができるのは、メンバー表に記載してある選手であり、他競技との併用出場は認めない。
9. １チームは、外野が４人の１０人制とし、１０人に満たない場合は相手チームの不戦勝とする。試合途中で１０人に満たなくなった場合も同様。ただし、両チーム合意の上、試合を行うことはできる。

試合

10. 試合開始の５分前に審判にメンバー表を提出する。
11. １試合５回戦または５０分とする。４０分以内で裏の攻撃が終わった時は、新しいイニングに入る。ただし、４０分を超えた場合の次の回は１番から５番までの攻撃とする。
12. 同点の場合は、アウト数の少ないチームを勝ちとする。アウト数が同じ場合は、１イニング目の得点が多いチームを勝ちとする。
13. コールドゲームは、なしとする。また、最終回の裏の攻撃まで必ず行う。
14. 打者は、主審が笛を吹いてからボールを打つ。
15. 打者が３回ボールを打つことができない時は、アウトとする。また、３回目がファウルの時は、アウトとする。
16. 打者がボールを打たないで、バッティングティーを打った時は空振りとし、ワンストライクが与えられる。ツーストライクからこれを打った場合は、三振（アウト）となる。
17. 攻撃側の１０人が打ち終わった後、守備側がボールをバッティングティーに置いた時（置くという行為をした時）にボールデッドとなり、チェンジとする。
18. 走者は、打者がボールを打つまでは離塁できない。離塁した場合、１回目は警告、２回目は他の選手であってもアウトとする。
19. 盗塁は、なしとする。
20. 打者および走者が打ったボールに当たった時はアウトとする。
21. 走者がベース上で重なった場合は、後ろからきた走者がアウトになる。また、前の走者を追い越した場合は、追い越した走者がアウトになる。
22. 送球がファウルグランドに出た場合は、２個まで進塁できる。
23. 守備側がボールをバッティングティーに置いた時点でボールデッドとなり、走者は塁間にいた場合、元の塁に戻る。
24. 守備側の選手は、ボールを打つまでバッターズサークルの中に入ることはできない。ボールを打つ前にバッターズサークル内に入った場合は、リプレイとする。
25. 外野手が内野に入って守備をしてはならない。
26. 守備側は、打者及び走者にボールを投げ当ててアウトにすることはできない。
27. ベースの踏み忘れは、ボールデッド前にアピールプレイを行うことでアウトになる。
28. 選手やコーチ以外にボールが当たった場合は、インプレイとする。ただし、明らかに守備または攻撃に不利になる場合は、ボールを打つところからリプレイとする。
29. 指名打者（ＤＨ）制を行使できる。
30. リエントリー制を行使できる。スターティングプレイヤーは、一旦試合から退いても、一度に限り再出場することができる。再出場する場合は、元の自分の打順に戻らなければならない。

監督・コーチ・審判

31. コート内で指示をするコーチ（ランナーコーチも含む）は、攻撃、守備共に３人まで認める。３人の中には、ベンチから指示をする監督は含まない。コーチは、一目で審判に分かるようにする。また、コーチは意識してボールを避けなければならない。
32. コート内にいる攻撃側のコーチにボールが当たった場合は、打者のアウトとする。また、走者を介助（伴走）するコーチにボールが当たった場合は、ランナーのアウトとする。
33. 守備側のコーチにボールが当たった場合は、インプレイとする。
34. 監督、コーチは、言葉かけ及び軽い接触を原則とし、過度な支援は審判の判断により、アウトまたは進塁となる。
35. 審判は、主審１名、塁審２名とする。
36. 審判への抗議は、監督のみ行うことができる。ただし、審判の判定には必ず従わなくてはならない。